

# 創立 20 周年を迎えた 福岡駐在員事務所

## 福岡駐在員事務所

### 1. ところ

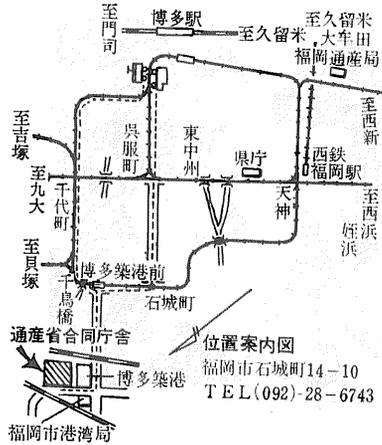
福岡市石城町 14-10 Tel (092)-28-6743

### 2. 生い立ち

- (1) 当事務所のはじまりは 昭和20年(1945)第2次世界大戦末期に 熊本県山鹿市に技官数人をもって地質調査所の一部が疎開し 事務所を開設したことにはじまる。 当時の技官は 河野義礼氏(現東北大学教授)ほか数名であった
- (2) 昭和20年(1945)8月15日 終戦となりその後福岡市に移転
- (3) 昭和21年(1946)7月1日 福岡出張所となる 当時の地質調査所長は故山根新次先生で 初代福岡出張所長は橋本克己氏であった この日をもって当所の創立とすれば ちょうど本年は満20年となり 成年に達したわけである
- (4) 昭和24年(1949)9月15日 福岡支所となる
- (5) 昭和27年(1952)8月1日 福岡駐在員事務所となり現在に至っている

- (2) 世の中がしだいに安定するにつれて 地質調査所本来の調査研究業務にもどり 地質の基礎的調査研究・地下資源の実体把握を目的として業務を進めてきた。
- (3) とくに地質調査所の出先機関として 九州における地域開発のための地質 ならびに地下資源の調査研究を目的とし つねに資料の整備・収集につとめ官界・学界および業界等の相談に応ずるよう心がけている。 近年応用地質や水資源に関する調査研究が要望され 本所の協力を得てこの方面の調査研究を進めている。
- (4) 当所で実施した調査研究は多岐にわたるが 大別すると次のとおりである。

- ① 炭田地域の地質調査・研究および技術指導
- ② 核原料物質の調査・研究
- ③ 未利用鉄資源の調査・研究
- ④ 天然ガスの調査・研究



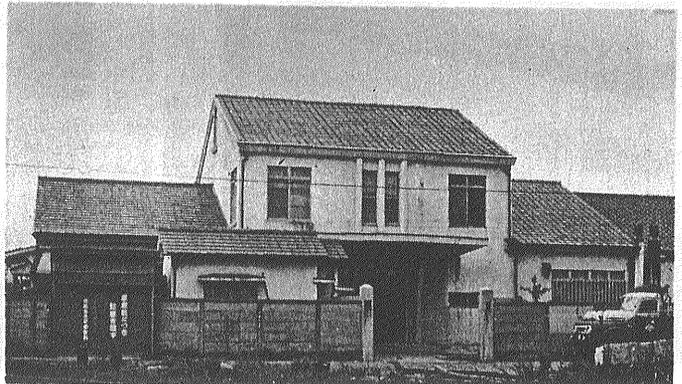
### 3. どんな仕事をしているか

- (1) 終戦後数年間は荒廃した日本を復興させる原動力として 石炭の開発促進が一つの大きな目標とされ炭田開発調査研究に重点がおかれた。 すなわち九州の全炭田にわたり 本所あるいは福岡通産局と協同して調査を行ない 多大の成果を挙げた。



一表 札

福岡駐在員事務所庁舎



- ⑤ 水資源の調査・研究
- ⑥ 金属および非金属鉱床の調査・研究
- ⑦ 応用地質（ダム基盤 地すべり 温泉など）の調査・研究

そのほか 福岡通商産業局・地方庁（県・市など）および業界などの要望による依頼調査や技術指導を行なっている。また九州管内の地質に関する各方面の資料の収集整備を行ない 各界の方々に広く利用していただくように努力を続けている。

#### 4. こんな立派な標本があります

故岡本要八郎博士（九州大学）が生涯にわたり収集さ

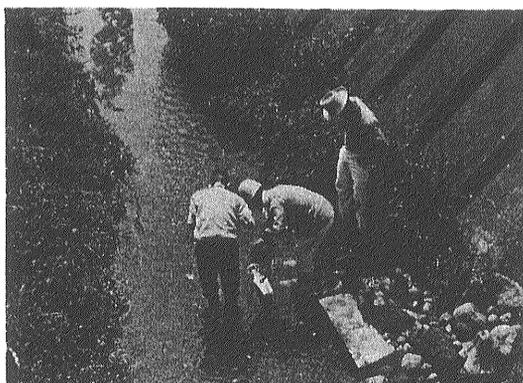
れた鉱物標本約3500点を 岡本コレクションとして当駐在員事務所に整理陳列している。

標本中には日本全国はもとより外国産のものも多く含まれ またふたたび得られないような珍しいものも多く 学界や鉱物愛好者の注目の的となっている。 保育社の原色鉱物図鑑に この中のものが多数掲載されていることをご存知の方は案外少ないのではなからうか。

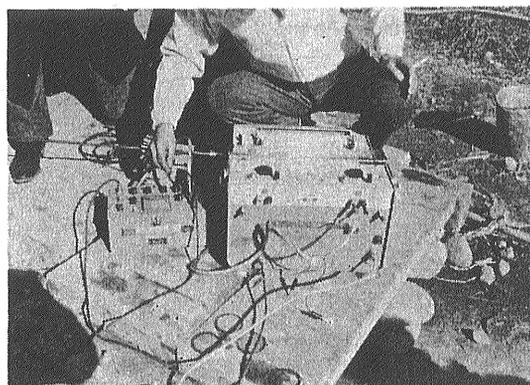
このコレクションは一般の閲覧に供し また希望団体（学校など）には鉱物標本のカラーズライド（テープ解説付き）の貸し出しもしているので ご利用下さい。



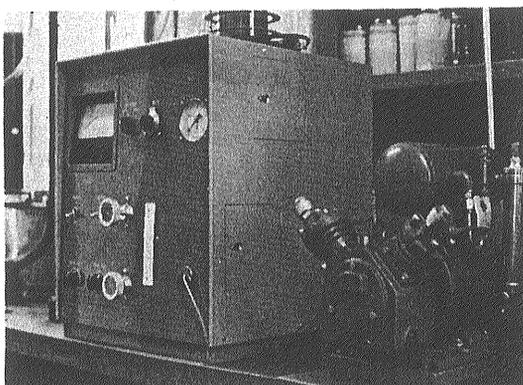
含砂鉄の採掘現場（鹿児島県種子島）



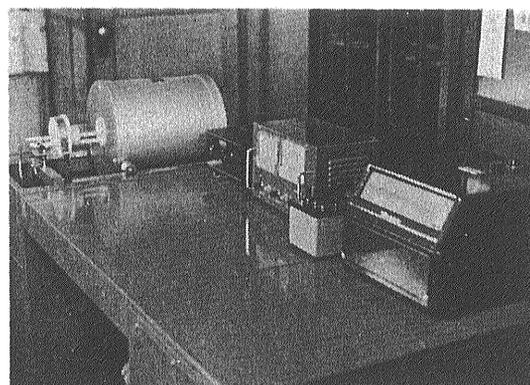
水の調査（諫早）



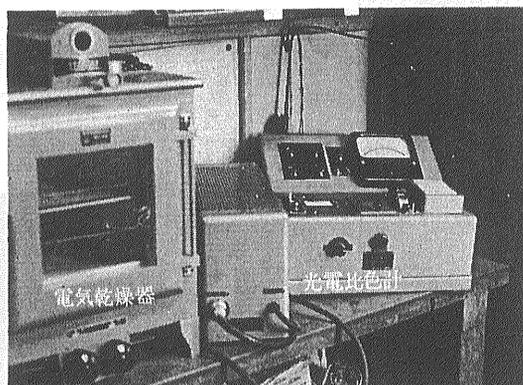
温泉の調査（電気検層 原輪温泉）



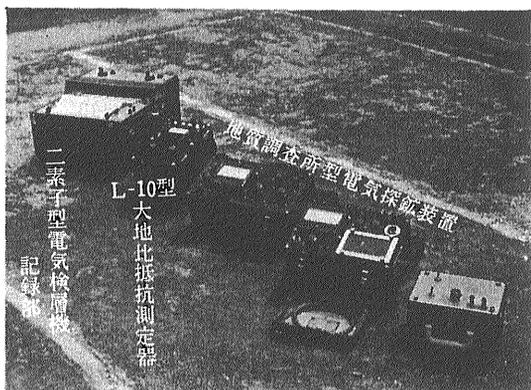
蛍光光度計（コタキ式）



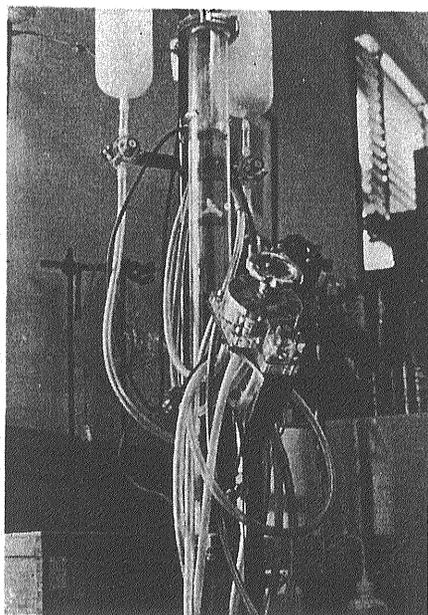
半自動式示差熱分析装置



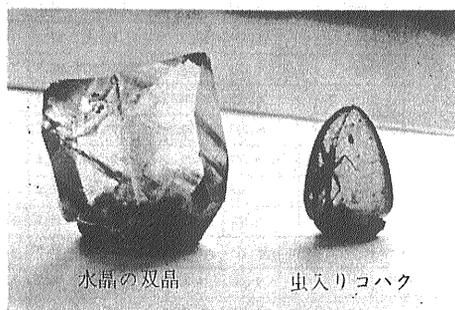
電気乾燥器と光電比色計



地質調査用器械類



純水製造装置（オルガン式）



水晶の双晶

虫入りコハク

岡本コレクションの一部



岡本コレクション整理戸棚



岡本コレクションの一部

## 九州の地下資源

### — 分布と生産量 —

九州には金属・非金属・石炭・天然ガスなど各種の鉱床が分布しているが その主要なものについて鉱床・鉱

山（休山中のものも含む）分布図を4頁に掲げた。

生産実績が全国の20%を超えるものは

金属鉱物…金鉱・すず鉱・脱銅硫酸焼鉱

非金属鉱物…滑石・軟けい石・炉材けい石・陶石・

カオリン・ダイアスポア・石灰石

燃料鉱物…石炭

などである

1. 金属鉱物

(下表参照)

2. 非金属鉱物

(下表参照)

3. 石炭(鉱業)

かつては九州における代表的鉱業として活況を呈した石炭産業も 近年のエネルギー革命にともない 急激に変ぼうをとげつつある。しかし国内地下資源としては依然重要なものの1つと思われるので 近況をご紹介します

よう。

① 炭鉱数

昭和35年度 347 (大手41 中小306)

昭和40年度 106 (大手20 中小 86)

すなわちここ5年間に241(大手21 中小 220)の炭鉱がへったことになる

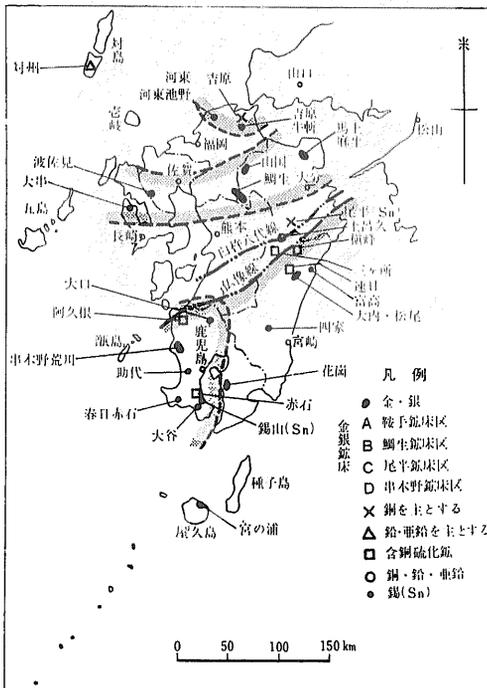
昭和40年度九州管内金属鉱物産別生産実績(鉱業統計月報による)

鉱種別	種別	単位	(A) 昭和40年度	(B) 昭和39年度	(C) 40年度全国	A/B (%)	A/C (%)
金	鉱	精舎 g	2,238,329	2,024,290	8,127,379	110.1	27.4
銀	鉱	# kg	29,278	29,266	283,152	100.0	10.3
銅	鉱	# t	1,711	2,377	106,103	72.0	1.6
鉛	鉱	# #	8,487	8,434	56,389	100.6	15.1
亜鉛	鉱	# #	12,848	11,778	226,398	109.1	5.7
硫化鉱	精鉱	#	86,201	93,068	4,369,291	92.6	2.0
すず	鉱	精舎 kg	279,040	260,108	820,629	107.3	34.0
アンチモン	鉱	# #	19,661	-	133,500	-	14.7
鉄	鉱	精鉱 t	1,913	2,044	1,119,991	93.6	0.2
砂	鉄	# #	135,056	134,498	1,311,201	100.4	10.3
硫酸焼	鉱	# #	389,284	387,281	2,334,214	100.5	16.7
脱銅硫酸焼	鉱	# #	296,862	291,455	780,329	101.9	38.0
マンガン	鉱	# #	5,705	6,465	315,188	88.2	1.8
チタン	鉱	# #	206	122	3,002	168.9	6.9

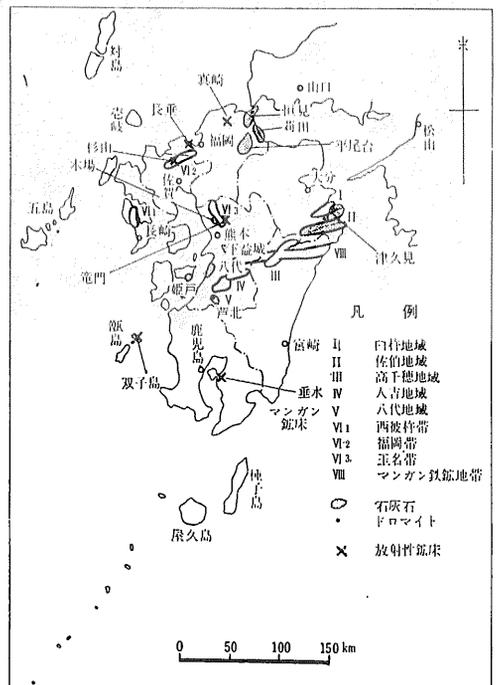
昭和40年度九州管内非金属鉱物産別生産実績(鉱業統計月報による)

鉱種別	種別	単位	(A) 昭和40年度	(B) 昭和39年度	(C) 昭和40年度全国	A/B (%)	A/C (%)
いおう	精鉱	t	4,117	4,653	254,188	88.5	1.6
滑石	原石	#	20,630	16,205	97,489	127.3	21.2
軟けい石	精鉱	#	946,644	853,046	2,204,917	111.0	42.9
白けい石	#	#	36,687	29,710	620,066	123.5	5.9
耐火けい石	#	#	99,883	75,541	208,711	132.2	47.9
天然けい砂	#	#	9,247	9,285	1,504,794	99.6	0.6
長石	#	#	1,565	2,066	56,372	75.8	2.8
陶石	#	#	104,878	106,428	225,977	98.5	46.4
カオリン	#	#	61,315	63,321	91,328	96.8	67.1
ダイアスポア	#	#	4,235	4,283	4,871	96.9	86.9
ろう石	#	#	39,427	44,860	902,834	87.9	4.4
ろう石クレー	#	#	5,953	6,794	320,672	87.6	1.9
頁岩粘土	#	#	58,564	81,217	314,395	72.1	18.6
ドロマイト	#	#	99,363	95,552	1,621,432	104.0	6.1
石灰石	#	#	18,651,934	17,223,120	63,013,365	108.1	29.6

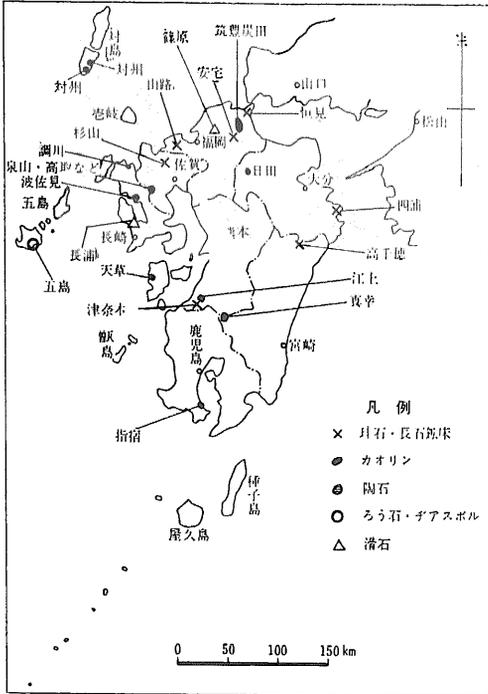
金属鉱床分布図



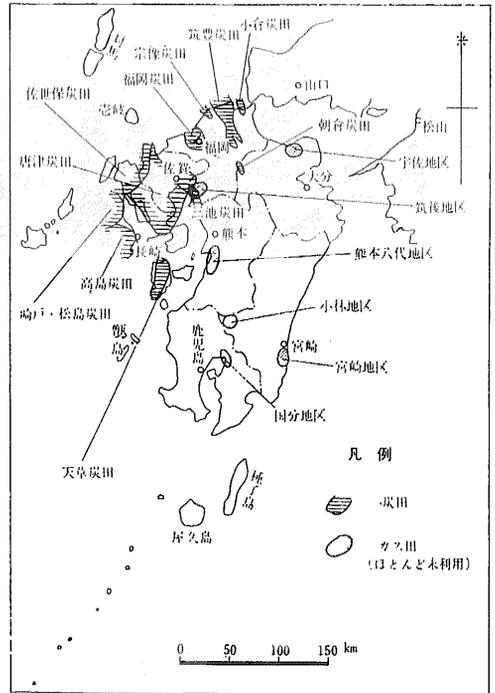
マンガン・放射性・石灰石・ドロマイト鉱床分布図



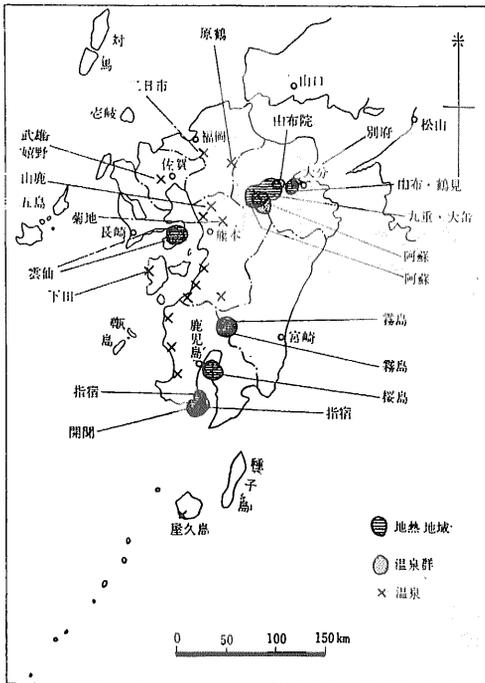
非金属鉱床分布図



炭田ガス田分布図



地熱温泉分布図



無煙炭 42 //  
せん石 48 //

③ 能率

昭和40年度 大手 41.2トン/人/日  
中小 29.1トン/人/日

④ 炭田別出炭量の推移 (昭和35年度~40年度)

炭田別出炭量 (昭和35~40年度) (福岡通産局資料)

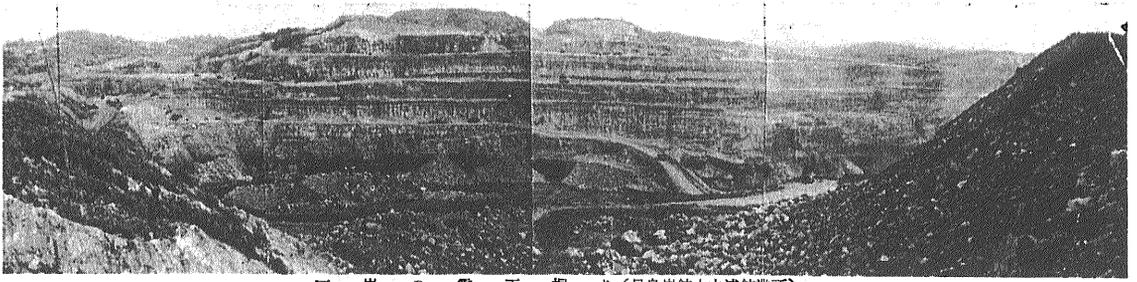
年度	単位 万トン								
	全国	九州	筑豊	福岡	朝倉池	唐津	佐世保	崎戸・松島	天草
35	5,260.7	2,614.6	1,359.8	120.2	126.8	272.2	406.8	287.9	40.9
36	5,541.3	2,719.4	1,273.2	109.5	390.6	232.3	376.3	296.3	41.2
37	5,358.7	2,676.4	1,208.9	90.2	419.3	269.3	334.2	314.6	39.9
38	5,109.8	2,362.0	1,028.4	52.0	343.2	253.1	305.5	340.4	39.4
39	5,077.4	2,277.9	996.6	11.6	437.7	217.3	246.6	334.1	34.0
40	5,011.3	2,188.0	854.6	7.8	506.1	212.8	219.4	358.2	29.1

② 出炭量

昭和40年度 2,188 万トン (全国の43.7%)

内訳 原料炭 541万トン  
一般炭 1,556 //

過去6年間の出炭量の推移をみるに 筑豊炭田・福岡炭田および佐世保炭田の減少が目立ち 反対に大手ビルド鉱をもつ海底炭田の三池炭田・崎戸松島炭田および高島炭田は むしろ増産に向っていることがわかる。なお出炭準備中のものに有明湾北部の日鉄有明炭鉱がある。近年 筑豊炭田において 日本一の規模をもつ露天掘りが行なわれているので その写真(6頁)をお目につけよう。



石炭の露天掘り(貝島炭鉱大之浦鉱業所)

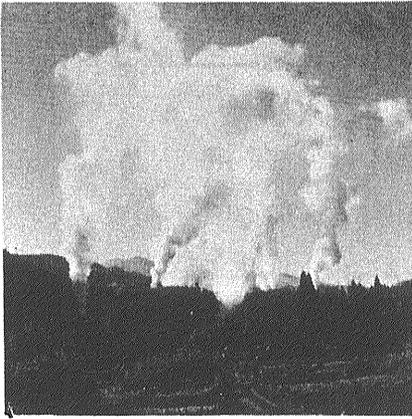
#### 4. 地 熱

わが国最初の地熱発電の研究は 大正7年(1918)海軍中将故山内万寿治氏が別府の坊主地獄付近にボーリングを行ない 噴気を得たことにはじまるといわれ 九州はその発祥の地である。九州の地熱地帯としては 由布・鶴見・別府・九重(大岳)・阿蘇・雲仙・小浜・霧島・指宿・開聞など多くのものが知られている。

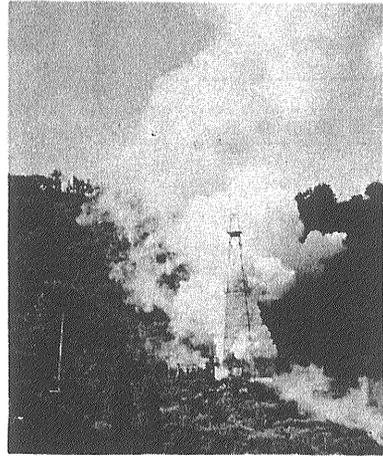
地質調査所においてはかなり前から地熱開発のための

基礎的研究を九州地区においても行なってきた。岩手県松川地区に続いて 大分県玖珠郡大岳地区においても目下地熱発電所が九州電力株式会社により建設されつつあり さしあたり1万kWの発電を目標としている。地質調査所では 今後さらに九州各地において調査研究を進めて行く計画である。

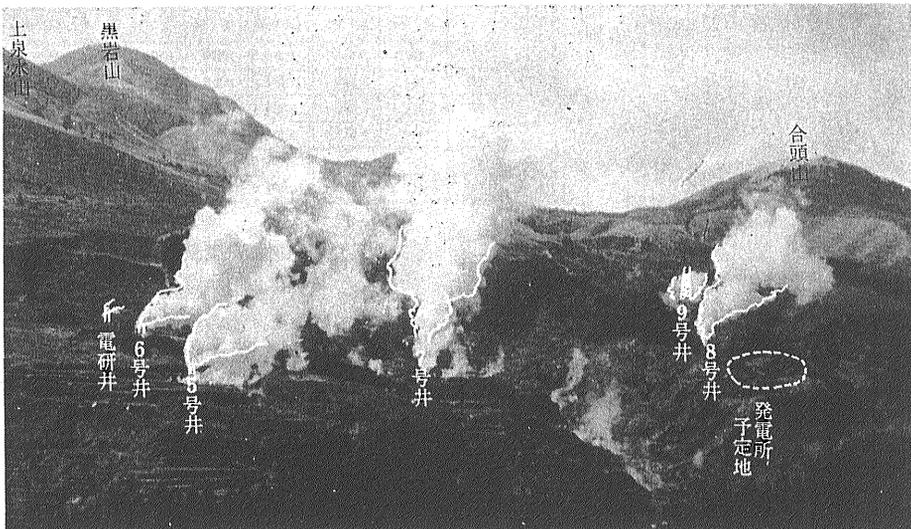
なお 水資源や南九州に多いシラスなどの資源については稿を改めてご紹介しよう。



大岳地熱地帯(42年10月 6号井~10号井を使用し 1万kWの発電の開発を準備中)



大岳7号井の噴出



大岳地熱地帯の全景